

技 術 交 流 会

長 嶺 巖

1. 交流課題

- (1) パヤオ周辺での曳縄漁業について
- (2) 漁協青年部活動について

2. 目 的

金武漁協は、モズク養殖や定置網漁業が盛んな漁協であるが、近年沿岸域の赤土汚染によって漁業生産は減少傾向になっている。

そこで、昭和60年から浮魚礁（パヤオ）を設置し、沖合漁場の有効利用を推進しているところであり、地域営漁計画でも、パヤオ漁業の振興と漁協青年部の育成強化を重要課題にあげている。

今回の交流会は、浮魚礁を設置しても、漁具、漁法が十分普及されていない金武漁協青年部と、パヤオ漁業の先進地である知念漁協青年部との技術交流並びに青年部活動の情報交換を実施した。

3. 交流地 知念村漁業協同組合

知念村久高島

4. 日 程 平成元年6月25日～27日

5. 参加者

金武漁協青年部……………柴 田 赫

仲 里 全 信

新 里 辰 也

与古田 勝) 自主参加

6. 交流状況

平成元年6月25日知念漁協に集合し、組合長と懇談したあと、14時30分、久高島へ渡った。

久高島漁業振興青年会、会長西銘喜久氏の案内で、モズクの採苗施設や島内視察を行なった。

その日は、午後8時から漁業振興青年会の定期総会に、オブザーバーで参加させてもらい、活動報告、会計報告、次年度計画、役員改選など、活発な意見交換がなされている状況に接して、大変感めいを受けました。

久高島漁業振興青年会の会員は29名、そのほとんどがパヤオ漁業が始まった昭和60年以降島にUターンして漁業に従事したとのことで、知念漁協青年部にも所属し、先進地視察や他地区漁協青年部との交流、まぐろの鮮度保持が活動計画の中心であった。

また、漁協セリの関係で、毎週土曜日は休漁し、毎月25日は定例会を開催、会員の意見交換、事業実施の打合せを行なって漁業技術の向上に役立てているとのことであった。

会員の平均年齢は33歳、大半は独身で、島に若い女性がいらないため、花嫁問題が深刻のようである。

21時30分から技術交流会に移り青年会顧問の内間豊氏から替航板曳縄漁法と、ジャンボ曳縄の漁具、漁法について説明を受け、翌日の乗船交流の打合せを行なった。

6月26日5時 喜久丸4屯（西銘喜久船長）と、豊大丸5屯（内間豊船長）の2隻に分乗して久高島南方18マイルに設置されているパヤオで、ジャンボ曳縄、カジキ曳縄、マグロ流し釣り漁法の研修を受けた。

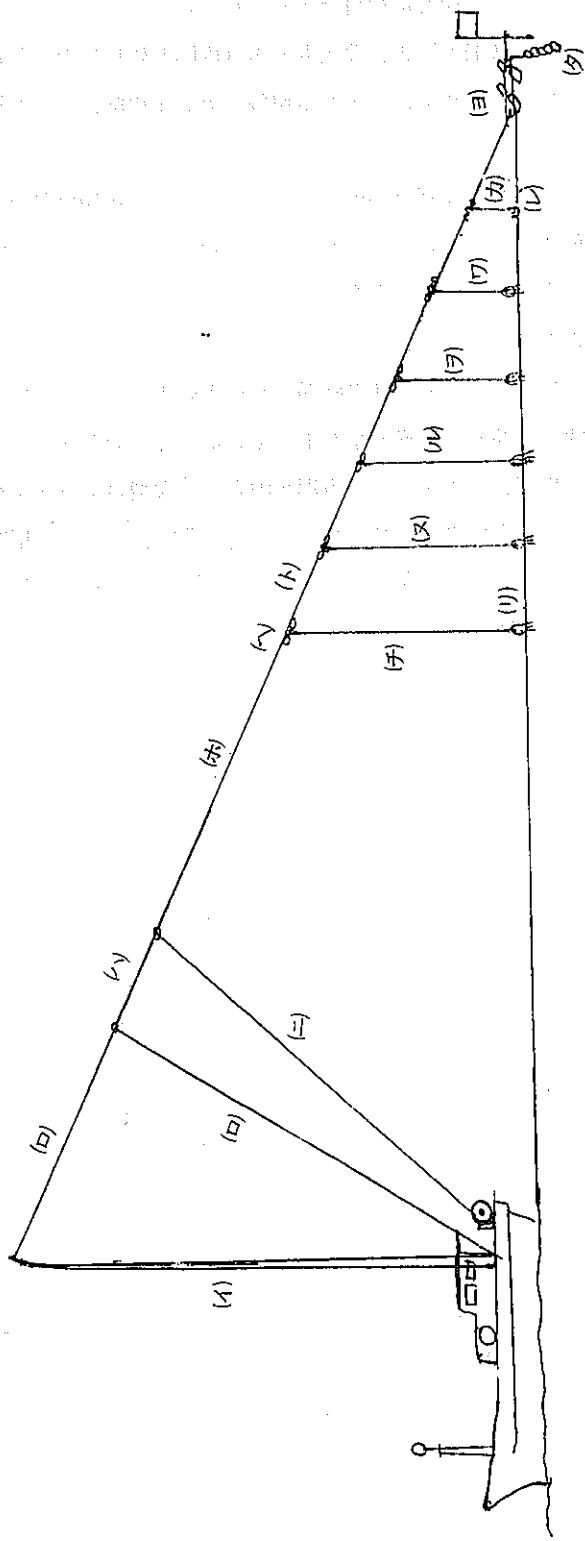
特にジャンボ曳縄漁法は、カジキや、本マグロが喰いついてもナイロンが切れないように幹縄を250号、枝縄を180号を使用していることと、操業方法でもパヤオを中心に右回りと決めて他船との漁具のもつれがないよう操業しており大変参考になった。

（ジャンボ曳縄漁具は別図1のとおり）

マグロ流し釣り漁法では、7月～10月のトビイカ漁の時期にパヤオ周辺で夜間、集魚灯をつけてトビイカを釣り、餌に使用して餌代の節減と漁獲効果を上げているところであった。

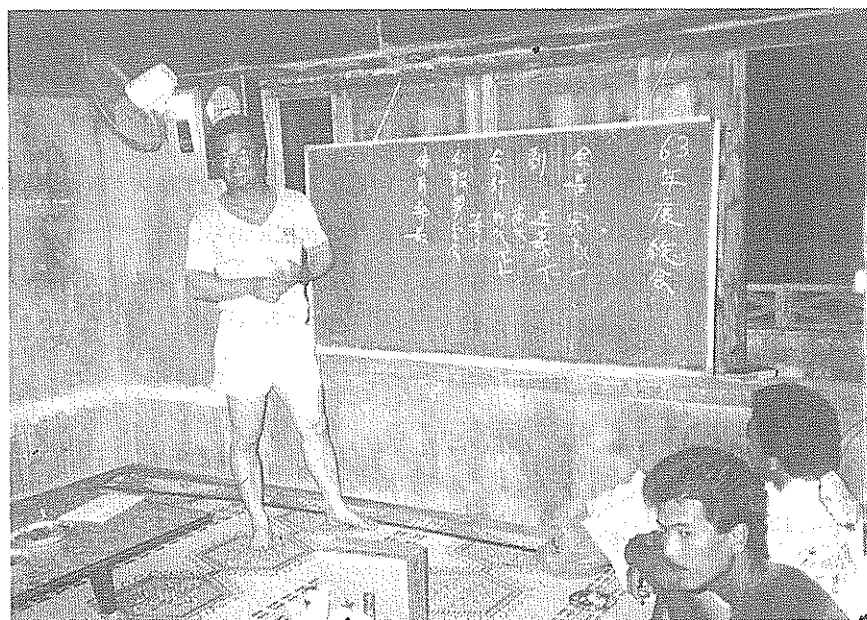
金武漁協のパヤオでは、サワラ曳縄、カツオ、マス曳縄が中心で、大型のキハダマグロ、カジキはほとんど漁獲されていないため、今回の技術交流会は大変有意義で、今後は青年部の強化と併せて漁獲アップを図る決意です。快よく受け入れて下さいました知念漁協並びに久高島漁業振興青年会の皆さんに心から感謝いたします。

図-11 ジャンボ曳縄漁具の構成図

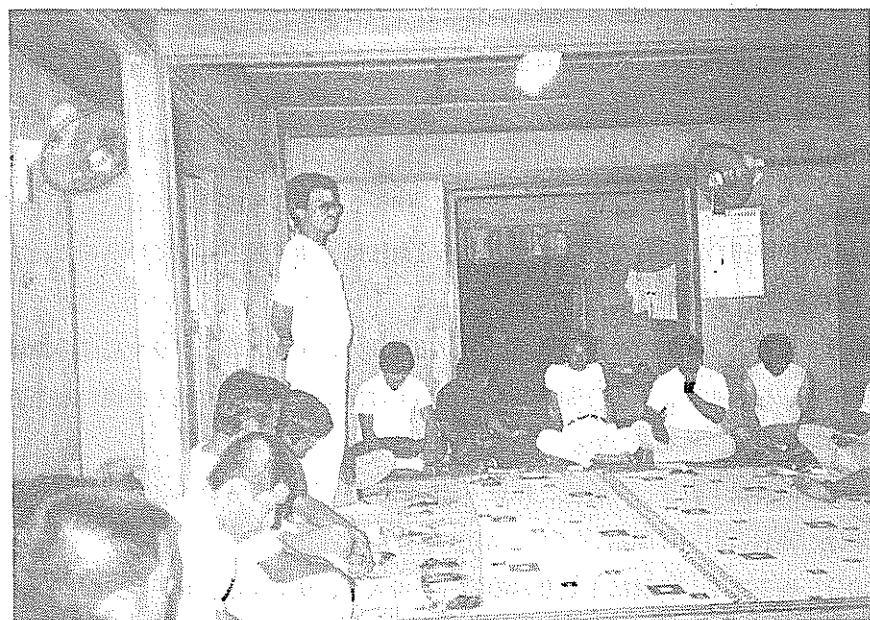


- (イ) 立竿 F R P 13m (ロ) 竿先糸 ナイロンテグス 250号 11m (ハ) トツタリ、クレモナ 5mm 5ヒロ
(ニ) 切ろせ糸 スーパート 30号 4本×30cm (ホ) 道糸 ナイロンテグス 250号 (ヘ) 接合部 スナップ大
(ト) 技糸間各10尋 (チ) 技糸 ナイロン200号3ヒロ (ヌ) 2.5ヒロ (リ) 2ヒロ (ワ) 1.5ヒロ (カ) 1.5ヒロ
(ヨ) ヒコキ、木、80cm×40cm (タ) オモリ、チェーン (リ) 擬餌、サクラベイト、ピンク色、茶色ベイト
(レ) 釣針 小松啓作 #55

加賀市農業協同会 加賀市農業協同会



総会で、役員選出も民主的に行なわれている



活発に意見交換を行なう